

# 斯文

第 九 號 第 二 十 二 編

昭和七年六月十五日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)  
昭和十三年八月廿七日印刷 昭和十三年九月一日發行

## 要 目

新民主義に就て	宇 田 尙
周公の統治と天命の歸趣	高 田 眞 治
漢字の古音に附いて識者に質す	高 田 忠 周
最近の國語改良運動と漢字漢語の問題	太 田 兵 三 郎
文 苑	
彙 報	

斯 文 會 發 行

漁火の點々たるは流螢かと疑はれ候。杯酒の間に清談に耽り候。嚴父靈香と號し、牙籌を執る傍詩作を試み、詩鈔の發刊されたもの既に二集あり候。狩獵の話より長生樂の事に及び、興味津々として盡さず、令母の謠曲を拜聴、御一同の懇情感謝に堪へず候。

漁火速連尊酒前

清風入座醉陶然

瀧君欲問長生訣

百壽猶餘四十年

十六日晴天、暑氣甚しく、今年初めて水泳の好適日に候。内田生を迎へ、桓楨恒三兒女と思ふ存分に泳ぎ廻はり、名残を惜み候。今年は僅三度の水泳、眞に三日天下に候。それでも氣がすみ、又來年を期して、十七日午前九時半、眞鶴驛を發して歸京、直に外相官邸の午餐會に臨み候。

報

告

○夏期講習會

本會第二十回夏期講習會は前月號所載の如く七月二十一日より三十一日まで六日間、斯文會講堂に於て開催したるが、竹田講師は公務の都合により鹽谷博士並に坂井督學官代つてこれに當られたり。各講師熱心に講演講義せられ、何れも時局に關係深き問題なるを以て一同緊張傾聴せり。又鹽谷教化部長は連日早朝より出席諸般の指揮幹旋に努められたり。かくて七月三十一日豫定の如く終了、正午より

修了式を舉行し鹽谷部長より修了證書授與並に一場の挨拶あり、修了者總代廣瀬了義氏答辭を述べ、萬事滞りなく第二十回夏期講習會を終了せり。尙本年も會期中、記念撮影、東方文化學院見學、午餐懇談會等の催しありて一同の交誼親睦を敦うするに資す所ありたり。出席者左の如し。

細野 潔(神奈川)	吉田 元定(奈良)	高瀬淳四郎(東京)
高橋平太郎(東京)	逸見舜太郎(山形)	山内 健(山形)
山内 太郎(山形)	倉光 卯平(東京)	小泉 秀男(東京)
角田 秋治(茨城)	小針 彌(東京)	山本岸太郎(東京)
山田 四郎(東京)	服部 藤敏(神奈川)	天野 金六(鹿兒島)
鈴木源二郎(千葉)	青木 亮義(京都)	右近 晃(東京)
奥山 亨吉(東京)	山本 徳一(東京)	栗山 龜藏(山口)
鈴木 義雄(神奈川)	新山 秀久(神奈川)	吉田 豊(神奈川)
黒澤 隆信(千葉)	島田眞右衛門(栃木)	三島 幸智(東京)
小濱 一男(東京)	藤田 規一(大阪)	仲澤 長光(東京)
中田 勅治(東京)	中西坂二郎(鹿兒島)	橋本 浩(東京)
原 重治(東京)	大串 千里(長崎)	土井 保(長野)
佐藤 靜雄(長野)	安井 恣(東京)	松井 浩(東京)
横井 吉隆(愛知)	丹下富太郎(岡山)	松屋 勝次(神奈川)
橋本 謙一(東京)	淵脇 蓬(東京)	森 一平(東京)
清水 五郎(福岡)	廣岡 玄亮(東京)	大野 清(東京)
湯谷 政春(東京)	本松 秀雄(福岡)	寺崎彌三郎(千葉)
松岡 俊夫(東京)	久保田代助(東京)	菅野 尙志(東京)
松下 忠(宮城)	小堺 功(北海道)	本多 賢龍(群馬)

間宮欽太郎(神奈川)	小幡 清子(東京)	鈴木 奎吾(岐阜)
能勢佐十郎(京都)	岡田まこと(東京)	桃谷 慈顯(東京)
溝口 新實(東京)	河合 秀夫(千葉)	小佐野卓美(東京)
廣瀬 正(千葉)	土橋 伸作(東京)	善場 實(東京)
關根芳太郎(埼玉)	園田 聰叔(東京)	廣瀬 了義(東京)
安田 榮作(神奈川)	茶谷 數男(東京)	漆原 隼人(千葉)
小池 くり(東京)	小笠原義隆(神奈川)	津嘉山正二(東京)

○聖堂夏期修養會

第三回聖堂夏期修養會は參加申込者多數にして一時に收容し難きため、之を二回に分ち、第一回は七月廿一日より廿五日まで、第二回は八月一日より五日まで、毎日午前七時半より十時半までとして開催し、講師の熱誠と兒童の精勵と相俟つて良好の成績を挙げたり。開始第一日には一同大成殿前に整列敬禮、孔子頌德歌合唱、濱野講師聖堂につき説明、右終つて講堂に入り鹽谷教化部長より懇篤なる訓辭、濱野講師より講習中の心得等につき訓話ありて講義に入る、講本は論語學而及び爲政の二篇(第一章より第四十章まで)なり。而して修了式は第一回は七月廿五日、第二回は八月五日各別に舉行せるが當日教化部長は公務の都合に依り山口會幹代つて修了證書を授與し且つ親しく訓示を

與へられ、兒童總代の答辭ありたる後、福島會幹より兒童に對し懇篤熱誠なる訓話ありて、一同に多大の感銘を與へたり。式次第、擔任講師、出席兒童氏名等次の如し。

修了式次第

- 一、開會
- 一、君が代合唱
- 一、勅語奉讀
  - 一、修了證書授與
    - 第一回總代 四谷校 長田 英方
    - 第二回總代 牛込校 秋本 幸江
  - 一、教化部長訓辭
    - 第一回總代 今戸校 小田 一司
    - 第二回總代 濟美校 大川喜代子
  - 一、兒童總代答辭
  - 一、孔子頌德歌合唱
  - 一、福島理事訓話
  - 一、閉會

論 語

擔任講師

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 一章——六 章     | 講師 林 竹次郎  |
| 七 章——十二 章   | 講師 高成田 忠風 |
| 十三 章——十四 章  | 講師 濱野 知三郎 |
| 十五 章——十九 章  | 講師 里見 功四郎 |
| 二十 章——二十一 章 | 講師 濱野 知三郎 |

二十二章——二十八章 講師 鈴木由次郎  
二十九章——三十二章 講師 濱野知三郎  
三十三章——四十章 講師 大島庄之助  
出席兒童氏名

(第一回) 自七月廿一日  
至七月廿五日

青木 益男 伊藤 亨 小出 達朗 菅井甲子雄  
高松 定宜(以上下谷校) 中川 精治 會澤 武八  
大久保幸一 伊勢榮一郎 中村 信一 塚田 靜男  
天野 養次(以上小石川校) 増田 義雄 松本 三郎  
萩原誠四郎 淺野 保夫 笹目善一郎 岡 昌次郎  
山田 惣明 吉田 秀一 中野 久雄 柴田 榮二  
長井 一 鶴田善次郎 前田 昌男  
(以上牛込校) 沖 光夫 勝山喜八郎 岡野 昌一  
坂 義平 羽賀 孝明 喜多野定雄 瓦林 三郎  
岡部 澄彌 岸本 通 伊藤 實 稻垣 正夫  
岡部喜代志(以上麻布校) 稻垣 博 田口 光衛  
藤澤 春夫 小林 昇一 堀越 賢藏 關口 良夫  
西村 徹 藤井 利男 川上 信二 渡邊甲子雄  
小島 武 櫻井 喜一 宮部 禮子 中村 笑子  
植村 和子 金山 君子 新開 幸恵 小林 光子  
石橋 俊子 武笠 喜代 淺田 きよ 岸 君子  
廣部 きよ 中田 薫子 中川 幸 新津 昌子  
飯田 君代 宮野ゑい子

(第二回) 自八月一日  
至八月五日

吉田 豐子 近田司壽榮 平澤 久子 松本 道子  
溝口美津子 植木 正子 佐藤 初子 鹽井 良子  
松浦登志子 近藤キ子(以上四谷校) 淺野 尙二  
武田 一男 高橋 邦輔 岩田 由夫 小澤 實  
櫻井洋太郎 宮本 實 淺田 義彦 青木 敏夫  
石橋 忠夫 小田 一司 中田 竹男 太田 實  
鈴木 昇 山田 廣司 田口功太郎 渡邊 勝雄  
三吉 元幸 音頭 久夫(以上今戸校) 村木 繁一  
中林 明 齊藤 吉正 木内 壽男 籠倉 武廣  
桑原 實 廣瀬 義夫 川合 秀雄 武内 久男  
野村 實 米澤 滿 寺本 利幸 高瀬 敬一  
岡田 幸男(以上清島校) 福島 正男 小宮 光雄  
小林富次郎 石井 勇 奥田 富夫 鈴木 秀男  
高橋 清次 中野 進 岩本 守雄 大吉 康雄  
宮下 務 小倉 六郎 島田誠之助 岩波 眞次  
小野 一郎 若狭 重信 高階 元二 川本泉太郎  
橋本 次郎 中田 竹治 塚田 正治 高田 茂男  
上村 義治 阿部晴一郎 長野 政文 長野榮次郎  
(以上藏前校) 西島 秀男 小山 博也 染谷 精一  
石橋 信夫 高見澤和男 小林 弘 田中 克治  
(以上明川校)

堀口 義弘 野澤 幸作 小林 利夫 吉濱 惣吉

久保田キク 早見 道子 宮澤 春江 福島 貞子  
中村喜美惠 長谷川歌子(以上本郷校) 鶴岡 敏子  
西村 法子 中村 幸子 茂木すみ子 福澤フサ子  
河盛 仁子 和田 とよ 遠藤 いと 坂本 文子  
(以上小石川校) 高橋 喜久 金子 春江 秋本 幸江  
川又万里子 奥山 節子 森野 敏子 田中ふみ子  
鈴木美佐子 荒川 糸江 竹下 清子 鈴木 富子  
上野 米子 梁地百合子 中村 麗子 今川富美子  
藤田 好子 能登佐登子 金澤富美子 繪面 滋子  
宮本嘉代子 鈴木 照子(以上牛込校) 成田 時子  
遠山 眞江 山本日出子 高野トモ子 坂田美代子  
長谷川琴子 神谷 弘子 藤記みつ子 松岡 善枝  
岡山 咲子 澤田きん子 青木 勝子 加藤 信子  
山里登美子 河井 愛子(以上麻布校) 野崎 悦子  
岩瀬 照子 山田 綾子 飯塚 洪子 田中 元子  
菊間美代子 増田いね子 大川二三子 小暮 靜子  
黒島 マキ 早川志津子 池田 幸子 川津 喜代  
渡邊キヨ子 前田トヨ子 大門 園枝 宮坂 美保  
杉下セキ子(以上今戸校) 阿本 量子 八田 光子  
清野 陽子 松本 妙子 山本日出子 山仲 正子  
金井ふゆ子 牧野 貞子 浦邊 初子 谷 百合子  
大川嘉代子 泉田 光子 中野 鈴子(以上清美校)  
小島 初子 神田 清子 五十嵐ミヨ(以上麹町校)  
高松 一男 石山 秀雄 永島富美子 小川 好子  
松澤富美子 尾上志満子 金子八重子 増田 房子

### ○編輯部會

七月三十一日午後四時半より本會會議室に於て例會を開く。會する者、高田部長、鈴木、豐田の兩委員、川上編輯員等にて、九月號の編輯に就て慎重協議を爲し、六時半散會する。本號の執筆者たる太田兵三郎氏は國民精神文化研究所員にして、日本儒學の研究者である。

### ○宇野總務鹽谷部長渡支

本會總務宇野哲人、教化部長鹽谷溫兩博士は、今回日支文化交流の指導機關として新に設置せらるゝ東亞文教協會發會式に、日本側委員として出席せらるゝこととなり、八月二十日東京驛發渡支の途に上られたり。